

ビルマ（ミャンマー）の歴史的王都の都市モデルの提示に関する研究 —マンダレーを事例とする古代インドおよび中国モデルとの比較考量

玉野総合コンサルタント株式会社 海外プロジェクト部 山田 耕治

○キーワード

マンダレー、ビルマ（ミャンマー）、王宮、首都、都市モデル

○概要

アジアにおける都城の空間構成に関するモデルとして、古代インドモデルが知られており、ビルマ（現ミャンマー）を含む東南アジア大陸部は、ちょうど両者の境界地域に属する。本研究では、植民地化以前のビルマの王都の代表例としてマンダレーを選び、その特性を、1) 空間構造、2) 軸性、3) 土地利用、4) サイズの4つの視点から分析した。その結果、上記両モデルのいずれとも類似・相違点をもちながらも、ビルマ王都に特有の東向き軸性を持つモデルを提示することができた。都市の歴史的文脈を分析・理解することは、都市の個性として将来像の設定に役立て、あるいは保全や復元の対象を特定および方向性を検討するなど、都市の個性に基づく計画策定などに有用である。

○技術ポイント

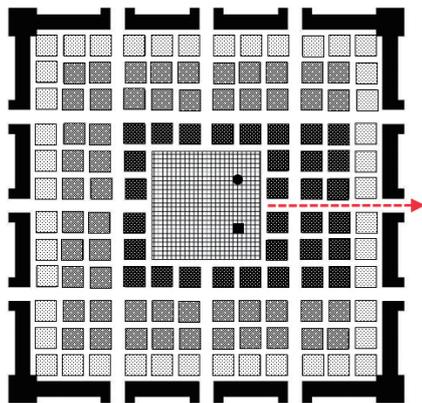
アジアにおける都城のモデルは、これまで二つの系統に整理されてきた。

- ① 古代インドモデル：紀元前4世紀までに編纂されたアルタシャストラなどによる。インド北部から同南部、大陸アジア（カンボジア）や島嶼アジア（インドネシア）などへの影響が知られている。
- ② 古代中国モデル：紀元3世紀ころに編纂された周礼考工記などによる。中国長江沿いから朝鮮半島、日本のルートと、南方ベトナムへのルートが知られている。

ビルマを含む東南アジア大陸部は、これまでインドモデルの影響下と考えられていたが、詳細な論考は出ていない。本論文では、ビルマ王都が、東向き軸性という古代インド、古代中国のいずれにも見られないユニークな特性を持つ新たなモデルとして提示された。

なおビルマモデルは、上座部仏教との関連が強く、東向き軸性も上座部仏教の僧院建築などにも共通して見られる特性である。こうしたことから、ビルマモデルと同様なモデルが、東南アジア大陸部で上座部仏教の影響をうけた地域にも共通する可能性があり、今後モデルの適用範囲についてさらなる研究が必要である。

○図・表・写真等



出典：著者 (Yamada K. 2019b)

表-1 インドおよび中国モデルとビルマモデルの比較

項目 Item	古代インド Ancient India	ビルマ Burma	古代中国 Ancient China
基本構想 Basic Plan	同心周帯 Concentric circumambient belts	同心周帯 Concentric circumambient belts	南北縞帯 North-south linear belts
	等方性 Isotropic	非等方性 Non-isotropic (東向き軸性 Eastward axis)	非等方性 Non-isotropic (南向き軸性 Southward axis)
基本形態 Shape	方形 Square	方形 Square, 濠 with a Moat	方形 Square
	旁三門 Three gates on each side	旁三門 Three gates on each side	旁三門 Three gates on each side
	十六街区 Sixteen blocks	十六街区 Sixteen blocks	十六街区 Sixteen blocks
核心施設 Central facility	中央神域 Temple	中央宮闕 Palace	中央宮闕 Palace
宗教施設 Religious facility	中央神域に包摂 Included in the temple in the center	左祖右社 Mausoleum on the left (North); Shrine on the right (South)	左祖右社 Mausoleum on the left (East); Shrine on the right (West)
官衙・市 Administration and Commerce	中朝外市 Court in inner belt; Commerce in outer belt	中朝外役 Court in inner belt; Utility in outer belt	前朝後市 Court in the front belt; Commerce in the back belt
民間住居 Residence	外周民庶 Outer belt	中周民庶 Intermediate belt	左右民庶 East/West ends

出典：古代インドおよび中国の項目は応地による（著者が英訳）、ビルマの項目は著者。注：下線は類似した項目

図-1 ビルマ王都のモデル

ビルマ王都の都市モデルの土地利用の特徴は、中央に王宮があり、そのすぐ外側から東方向を高官や官房といった宮廷機能が集積、外周沿いに工場や倉庫といったユーティリティ機能が、そして中間の周帯を住居系が占めている。

ビルマモデルを古代インド、古代中国モデル [いずれも応地利明による] と比較考量した表である。基本形態である方形で各辺に3門、16街区構成は3者に共通する。基本構想の面では、同心周帯がインドモデルと共通するが、核心（中心）施設として王宮がある点は中国モデルと共通する点である。ビルマモデルのユニークな点は、王都が（王宮もそうであるが）東向き軸性を有することが、これは中国モデルの南向きと対照的である。